

写 真	名 称	特徴・使い方	自立活動の区分
	枕	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主にヘッドレストとして使い、子どもに応じたサイズや硬さが求められます。</li> <li>・臥位や座位で使用するときは、頸の角度（顎が上がりすぎてないか、逆にうつむき過ぎになっていないか、子どもが楽に呼吸できているか、頸や肩に力が入っていないか）を確認してください。</li> </ul>	身体の動き
	三角マット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位で上体に角度をつけるときや腹臥位で肘立ち位にするときなどに使います。</li> <li>・仰臥位では、上体を屈曲させることで、頸や肩の過緊張を防いだり呼吸が楽になったりします。</li> </ul>	身体の動き
	前傾姿勢保持クッション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座位で前傾姿勢をとるときに使います。</li> <li>・体の前に置いて装着すると安定します。</li> <li>・カーシートの補助にも使えます。</li> </ul>	身体の動き
	セラピーベンチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位、腹臥位、座位、膝立ち位、立位の各姿勢保持や姿勢変換等、発達段階や課題に応じて使うことができます。</li> </ul>	身体の動き

写 真	名 称	特徴・使い方	自立活動の区分
	<p>四角いクッション</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• いろいろな姿勢の保持に使えます。仰臥位では、膝の下に敷くことで股関節や膝関節の角度を 90° に保つことができます。またよつばいや膝立ち位での支えにもなります。</li> </ul>	<p>身体の動き</p>
	<p>クッション チェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 座位保持が難しい子どもでも、比較的安定して座ることができます。</li> <li>• 単独使用だと、上体は後傾気味になります。活動に応じて、クッションをはさむなどの工夫で学習や作業がしやすくなります。</li> </ul>	<p>身体の動き</p>
	<p>姿勢保持シート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 座面と背面の角度が 90° に設定されています。</li> <li>• 膝の上に乗せたり、壁やテーブルで固定したり、車いすやソファなどに使用できます。</li> </ul>	<p>身体の動き</p>
	<p>内転防止 クッション付きの いす</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自力で座位が取れる子どもに向いています。</li> <li>• 下肢が内転するのを防ぐことで良肢位を保ち、下半身が安定します。</li> <li>• 下半身が安定することで、学習や作業がしやすくなります。</li> </ul>	<p>身体の動き</p>

写 真	名 称	特徴・使い方	自立活動の区分
	<p>ロール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仰臥位では、膝の下に敷くことで左右対称の良肢位を保つことができます。</li> <li>・またがるように座り、バランスをとる練習にもなります。</li> </ul>	<p>身体の動き</p>
	<p>座位で移動できる車</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座面に座って移動することができます。教員が子どもの後ろから座位を支えながら移動すると、子どもも安心して動く感覚を楽しむことができます。</li> </ul>	<p>身体の動き</p>
	<p>ファシリテーションボール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気量を調節した柔らかいボールによってもたらされる重力負荷の軽減を利用して、抗重力活動、バランス、姿勢の保持・静止・変換・移動、手指操作などを個々に応じてプログラミングする方法です。（FBM研究会のホームページより）</li> </ul>	<p>身体の動き</p>
	<p>重力軽減環境訓練システム (スパイダーや楽スタとも言います)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベルトを身体に装着し、そのベルトにゴムバンドを取り付けて、ゴムバンドのもう一方をフレームに固定します。</li> <li>・筋肉や関節の調整が容易になり、空間での身体の位置やバランスの状態を感じやすくなります。また、重力を軽減し、姿勢コントロールがしやすい環境の中で、動きを自分で作り出すことができやすくなります。</li> </ul>	<p>身体の動き</p>

